

# 元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2015 Yuanpei University of Medical Technology Summer School of Chinese  
Culture Learning & Healthcare Industry Site Visit

医療科学部 放射線技術学科 1回生 竹内 健吾



私は今回8月16日から22日までの一週間、台湾・元培科技大学で行われた国際交流サマースクールに参加して来た。この研修へ行くことで、台湾と日本の文化の違いや台湾の医療事情を知る事が出来、これから大学で専門科目を学ぶ上で、役立つ体験になると思い参加を希望した。

文化交流では、台湾の学生の語学に対する意識の高さに衝撃を受けた。今回お世話になった台湾の学生さん達は皆、母国語の中国語に加え、英語・日本語も母国語と同じ水準で話す。それゆえに研修中コミュニ

ケーションを取る事が出来た。台湾は他の国から技術援助を受け医療技術を発展させて来た。これはこのような語学力によってこそ実現した事であると思う。この事は同じアジアの学生として見習うべきである。日本がこれからさらに医療の品質を向上させていくためには、私たち日本人も語学力が必須であると思う。

医療機関研修では、2つの病院を見学した。1つは新竹国泰総合医院で、最も先進的な医療機器の設備が揃っている13階建ての338床の大きな総合病院である。2つ目は台安医院で、世界的な伝道組織のセブンスデー・アドベンチスト教会が運営する400を超える医療機関の1つである。この病院には、お肉を使わず野菜のみの料理を提供する事と院内にフィットネスクラブを併設する事で、より良い食事習慣とライフスタイルを提供するNEW STARTという取り組みがある。

この取り組みは、慢性病の予防や治療に役立っている。日本も生活習慣病の予防に対する意識が高



まっており、食事習慣が重要になっている。このことから予防に対する取り組みは、台湾だけでなく日本の医療においても同じ課題だと思った。

台湾の学生さん達はみな友好的であり、最終日前夜に京都医療科学大学の先輩方・同期と一緒にサプライズで誕生日パーティーをしてくれた。驚いたと同時にうれしく、今回のサマースクールの最後に非常に良い思い出を作ってもらえた。

この国際交流サマースクールでの体験は、私にとって物事を多角的に考えられるようになるきっかけになり、貴重な経験をすることが出来た。私は将来、技術者としてだけでなく、日本と台湾の技術を繋ぐ担い手としても活躍していこうと思った。

